協議第５号

６－１　地域の概況

６－２　海岸部

黒部川扇状地の扇端部に位置し、あいの風とやま鉄道と交差するまでの富山地方鉄道の南西側区間、国道８号及びあいの風とやま鉄道を東側の境界とすることを基本とし、生地、石田、村椿地区からなるおおむね810haの地域であり、隣接する大規模工業地も含む地域です。

６－３　農村部

主に国道８号から山側に位置し、中心市街地と新幹線駅周辺に接する大部分が農業振興地域に指定された地域です。大布施地区の全域、荻生、若栗、田家、浦山、下立、愛本の地区の一部からなるおおむね 3,080ha の地域です。

黒部川扇状地に広がる水田に農家が点在する散居村や、北陸街道の下街道に沿う集村集落（沓掛等）から形成されています。

６－５　新幹線駅周辺

黒部宇奈月温泉駅と黒部ＩＣの周辺地域で、荻生地区と若栗地区の一部からなる、おおむね170haの地域です。

６－６　地鉄沿線

（主）黒部宇奈月線と並行して走る富山地方鉄道の沿線に位置し、歩いて地鉄駅を利用することができる一帯で、おおむね 1,220ha の地域です

地域は、荻生、若栗、浦山、下立、内山及び音沢の一部の地区で、集落は富山地方鉄道と並行する幹線道路に沿って分布しています。

６－８　宇奈月温泉

黒部峡谷の入口に位置し、雄大な自然に囲まれた、おおむね120haの宇奈月温泉街とその周辺地域です。

大規模な温泉旅館や多くの土産物店等が集積するほか、宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」、芸術創造センター「セレネ」及び宇奈月温泉スキー場が立地しています。

また、周辺には、緑豊かな自然や河川を活かした観光施設も立地しています。

６－４　中心市街地

黒部川扇状地の扇央部に位置し、緑豊かな農村部に囲まれた、三日市地区周辺のおおむね 360ha の地域です。

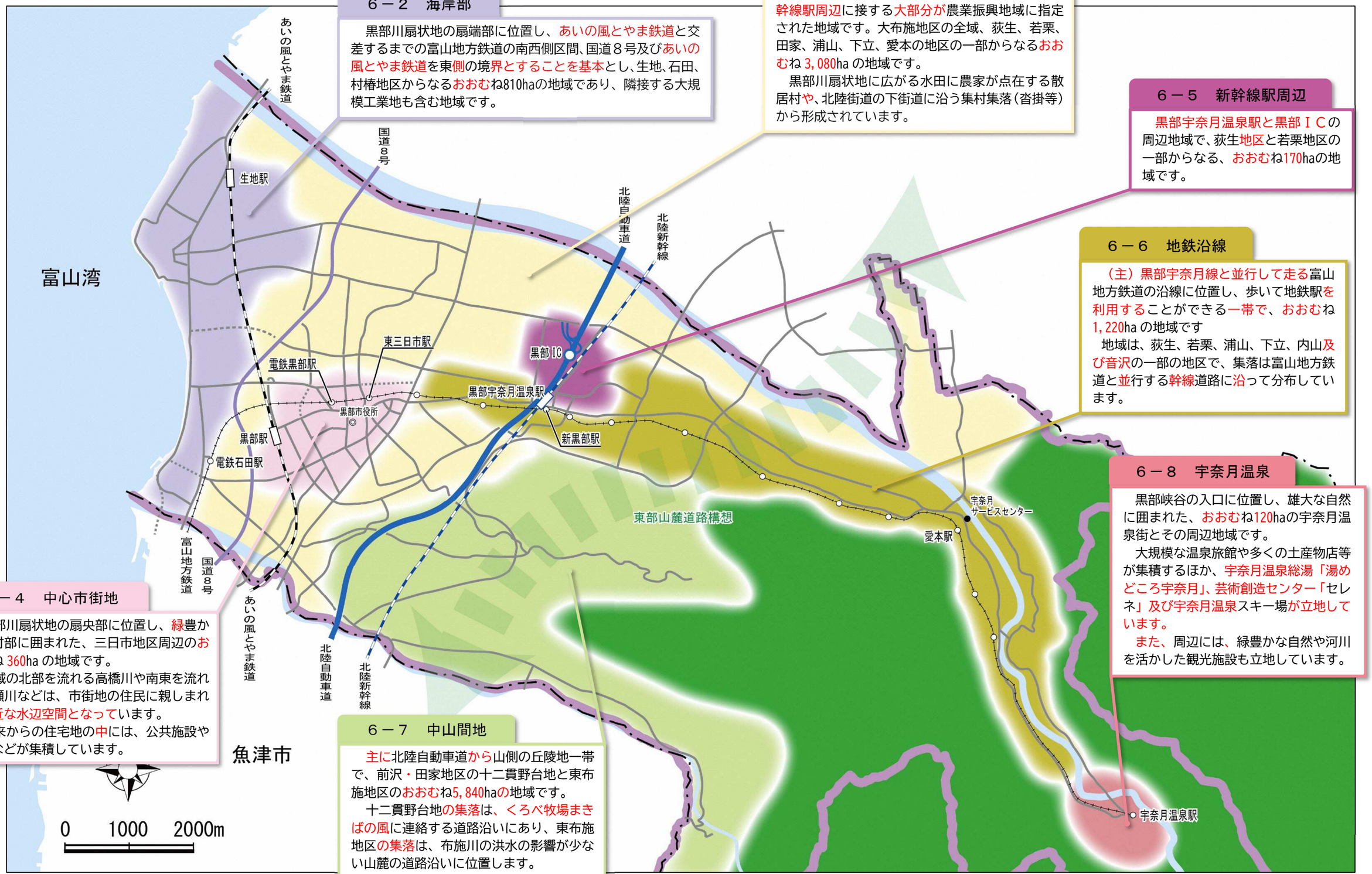
地域の北部を流れる高橋川や南東を流れる黒瀬川などは、市街地の住民に親しまれた身近な水辺空間となっています。

旧来からの住宅地の中には、公共施設や商店などが集積しています。

６－７　中山間地

主に北陸自動車道から山側の丘陵地一帯で、前沢・田家地区の十二貫野台地と東布施地区のおおむね5,840haの地域です。

十二貫野台地の集落は、くろべ牧場まきばの風に連絡する道路沿いにあり、東布施地区の集落は、布施川の洪水の影響が少ない山麓の道路沿いに位置します。



６－２　海岸部

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

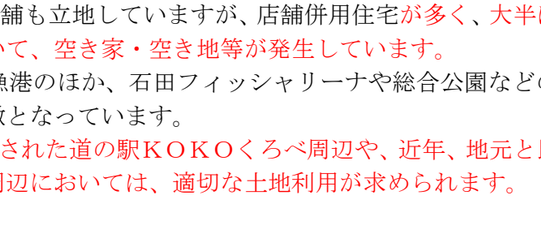
本地域では、人口が減少し、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.8%、65 歳以上が 35.6%であり、本市平均と比べ、少子高齢化が進んでいます。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	8,700	8,300
世帯数(世帯)	3,120	3,220
人口密度(人/ha)	10.7	10.2
平均世帯人員(人/世帯)	2.8	2.6
人口推移(H27=100)	100	95

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

生地地区を中心に漁業が行われており、魚の駅「生地」などでは、収穫された魚介類が販売（直販）されています。

世界的企業の大規模工場では、ファスナーやアルミ製品、工業用機械の製造が行われています。

３）　観光・交流

生地地区では、漁師町ならではの風情があるまちなみ景観を楽しむことができます。また、石田地区では、海辺でのレジャーに市内外から多数の人が訪れています。

新たな観光・にぎわい拠点として、令和４年に道の駅ＫＯＫＯくろべが整備されたほか、富山湾岸サイクリングのコースに設定されたことなどにより、にぎわいを取り戻す可能性を秘めています。

また、生地地区や村椿地区では、観光施設などを有機的につなぐためのレンタサイクルが整備されています。一方、観光ボランティアなどの不足が懸念されます。

４）　交通

海岸部の各地区を結ぶ主要地方道魚津生地入善線の工事が一部行われているほか、国道８号入善黒部バイパスが全線開通しています。また、（都）新駅中新線の国道８号入善黒部バイパスから海岸部は、線形や事業手法等について具体的に定まっていない状況にあります。

公共交通については、あいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、路線バス・コミュニティ交通が地域内外を連絡していますが、近年、利用者数は減少傾向を示しています。

５）　土地利用

生地地区や石田地区に市街地が形成され、店舗も立地していますが、店舗併用住宅が多く、大半は住宅用地となっています。また、市街地内において、空き家・空き地等が発生しています。

公共公益施設等としては、黒部漁港や石田漁港のほか、石田フィッシャリーナや総合公園などのレクリエーション施設が立地していることが特徴となっています。

一方、新たな観光・にぎわい拠点として整備された道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺や、近年、地元と民間企業が連携したまちづくり構想が進む生地駅周辺においては、適切な土地利用が求められます。

６）　自然・景観等

美しい日本海に面する本地域は、清冽な清水や新鮮な魚介類、海水浴場や石田フィッシャリーナなどのマリンスポーツ、風情のある漁村集落、産業観光、防風林を活かしたキャンプ場、黒部川や立山連峰の景観など、優れた観光資源を有しています。

また、道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺においては、新たな観光・にぎわい拠点として、良好な景観形成が求められます。

一方、市街地は、木造住宅が密集しているため、火災による類焼、高波、津波などの危険性が高い環境にあります。

（２）地域の問題点・課題

１）　人口

人口減少の抑制に向けた機能充実・市街地整備を図る

密集市街地でのゆとり創出に努めるとともに、商業や福祉など、地域住民の日常生活を支えるサービスの充実を図ることによって、若年層を中心とした人口の流出を防ぎます。

また、地域では、市街地内の空き家・空き地等の増加を危惧していることから、住民が主体となって、土地区画整理事業等の手法を活用した住環境整備の検討に向けた勉強会を行っており、これらの取組と呼応しながら、適切な土地利用を推進していくことが必要です。

生地駅周辺では、地元と民間企業が連携したまちづくり構想が進められており、地域の活性化が期待される一方で、適切な土地利用を図っていくことが必要です。

２）　観光・交流

訪れたい魅力的な地域づくりを進める

生地地区や石田地区の市街地では、来訪者を魅了する物販店や飲食店のほか、観光ボランティアの不足が懸念されます。

また、道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺では、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られることから、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努める必要があります。

今後、本地区への来訪者の更なる増加が期待されるため、受入体制の充実を図るとともに、来訪者の満足度を高め、リピーターの増加を図るほか、交流人口や関係人口の増加につなげることが必要です。

３）　環境

地域の安全性を高める

市街地が海岸に接しているため、漁村景観の継承に努めながら、高波、津波などの危険性から地域を守る必要があります。

４）　地域資源

水環境（名水・海辺）を守る

生地市街地などに点在する湧水群の一部では、水質中の塩化物イオンの数値が基準値を超える箇所があることから、引き続き、水質調査の値を注視していく必要があります。

また、美しい海岸環境を守るため、侵食が進む海岸の保全が求められます。

５）　交通

中心市街地等との連携を強化して一体性を高める

本地域においては、路線バスのほか、デマンドタクシーが運行していますが、近年、利用者数が減少傾向を示しており、維持・活性化が喫緊の課題となっています。

一方、本市では、「黒部市立地適正化計画」において、“コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり”を推進しており、同計画に基づき、中心市街地（三日市地区）及び幹線道路との交通を充実・強化することにより、一体的な黒部市のまちづくりを進める必要があります。

（３）地域の将来像

≪美しい海辺などを活かした観光・にぎわい拠点が形成された地域≫

本地域においては、富山湾に面する海岸部の特性を活かしながら、津波などの自然災害に強い地域の実現を目指します。

また、漁村集落ならではのまちなみや清水を守り、海浜レジャー施設や道の駅ＫＯＫＯくろべなどを活かしながら、魅力的で何度も訪れたくなるまちづくりを推進します。

（４）まちづくりの方針

１）海辺のまちなみを活かした市街地整備

密集市街地の空き地等を活用して、身近に利用できる公園や海辺・水辺遊歩道等の適切な配置の検討及び整備に努めるとともに、市民意識の啓発や空き家・空き地等の適切な土地利用を進めながら、市民が安心して暮らせるよう、身近な福祉施設や生活利便施設等の整備・充実に努めます。

また、老朽化が深刻な生地水源地、石田岡水源地及び村椿水源地の機能を集約した新たな配水場の整備を進めます。

市街地においては、まちなみの環境や景観に対する市民意識の啓発に努めながら、風情を残すまちなみを保全するとともに、住宅の不燃・耐震化や安全な道路幅員の確保など、防災性を向上させるため、地域住民の参画を図り、地域の実情を踏まえた対応策を検討します。

あわせて、近年、頻発・激甚化する自然災害に備え、訓練内容を充実した防災訓練等を実施し、市民の防災意識の啓発を図ります。

市街地周辺の住居系の用途地域などでは、良好な住環境を維持しながら、移住・定住の促進を図ります。

また、海辺でのスローライフを考えている人々の移住・定住を受け入れるため、「移住・人つなぎ支援センター」の活用を促進するとともに、「黒部市空家・空地情報バンク」の利用促進やＮＰＯなどと連携した空き家の活用を推進します。

このほか、生地駅周辺では、地元振興会などが民間企業と連携し、駅の移設検討を含めたまちづくり構想を進めており、地元や民間企業との役割分担の下、相互に連携し、地域活性化の観点から市の役割を果たしていきます。

２）まち歩き観光や産業を活かした地域の活性化

来訪者の集客力を向上するため、魅力的な商業・飲食施設等の立地を促進するとともに、安全で快適にまち歩きを楽しめる環境の充実に向けた取組などを検討します。

また、散策ルートの充実を検討するほか、まち歩きガイドの確保や人材育成などによる受入れ体制の強化に努めるとともに、市街地では、景観まちづくりの推進に向けた各種事業を検討します。

さらに、民間企業との連携を含めて、水資源やまちなみ景観など、良好な地域資源を活用した観光ツアーの充実、漁村の歴史を継承する観光ガイドの育成、市民のホスピタリティ（もてなしの心）の醸成などを働きかけ、リピーターとなる来訪者の確保に努めます。

このほか、新たな観光・にぎわい拠点である道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺においては、集客力のある施設が集積していることから、複合的に一体感のあるエリアとして、地域振興に資するにぎわいの創出を図ります。また、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られることから、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努めます。

３）海浜レクリエーション拠点の形成

家族で釣りが楽しめる石田フィッシャリーナ・釣り桟橋、海水浴が楽しめる石田浜海水浴場、富山湾岸サイクリングコース、生地鼻灯台などを活かし、大人からこどもまで、富山湾の海の恵みに触れることができる地域として、多様なレジャーやマリンスポーツの需要に対応したマリーナや周辺施設の活用及び機能の充実を促進します。

また、海辺は、国や県と連携しながら、寄り回り波などの高波や津波等の海岸保全対策として、防波堤や消波ブロックの補強、防災避難施設や避難路の整備をはじめ、荒俣海岸や大島海岸の保全の徹底に努めるとともに、季節風による被害を軽減するための海岸防風林の維持・保全に努めます。

４）海辺や湧水などの環境を保全

生地の市街地などに点在する黒部川扇状地湧水群など、恵まれた名水を保全・活用していくため、水質などの長期的なモニタリング調査を実施するとともに、水に対する市民の関心を高め、その維持のための節水など、水資源の保全に対する意識の啓発を全市的に働きかけていきます。

また、美しい海岸の環境や景観を維持・保全していくため、住民参加による環境保全に向けた取組や美化活動を促し、市民意識の更なる啓発及び環境保全団体の支援による保全活動を推進します。

さらに、海岸浸食が進むところについては、国や県と連携し、景観に配慮しながら、藻場・漁場保全機能との一体型離岸堤や緩傾斜堤、人工リーフ等の整備など、下新川海岸直轄事業を促進します。

５）中心市街地をはじめ地域間の道路・交通網の充実

主要幹線道路では、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証するとともに、海岸部を南北に連絡する湾岸道路の整備を促進します。

また、幹線道路については、必要性の高い路線を選択し、道路改良や歩行環境の整備等を促進するとともに、必要に応じて、都市計画道路の見直しを検討し、中心市街地や幹線交通網からの連携向上を図ります。

さらに、狭隘道路の拡幅、ボトルネック区間の解消などを促進し、地域内交通の円滑化を促します。

このほか、路線バス・コミュニティ交通については、運行事業者や地元振興会との連携を強化しながら、利用促進を図るとともに、適宜、ルートやダイヤの見直しを行うなど、利便性の向上に努めます。

６－３　農村部

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

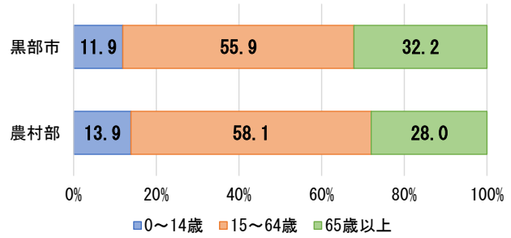
本地域では、大布施地区での宅地開発の進行により、一部の地区で人口が増加しているものの、他の地域では人口が減少していることから、本地域の人口は横ばいとなっています。また、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、65 歳以上は３割以下であり、本市平均と比べ、少子高齢化の傾向は緩やかとなっています。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	16,500	16,500
世帯数(世帯)	5,680	6,070
人口密度(人/ha)	5.4	5.4
平均世帯人員(人/世帯)	2.9	2.7
人口推移(H27=100)	100	100

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

水稲を中心に農業が盛んに行われてきましたが、近年は農業従事者の減少や高齢化などにより、農業経営体や農業経営体耕地面積は減少傾向にあります。一方で、農業産出額（耕種・畜産）は増加傾向にあります。

３）　観光・交流

近年、農業や農村の暮らしを体験する交流プログラムなどが、都市住民等を対象として行われています。また、黒部川流域に設けられている複数の公園・緑地は、親水空間として、市内外から多くの人に利用されています。

４）　交通

幹線道路や旧街道が、本地域と中心市街地や他の地域を連絡しています。

また、本市の骨格となる国道８号入善黒部バイパスが全線開通するとともに、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線の４車線供用に向けた整備が進められています。

公共交通については、路線バス・コミュニティ交通が地域内外を連絡していますが、利用者は減少傾向を示しています。

５）　土地利用

本地域は、集村と散居村に二分され、土地利用の状況としては、農地が半分以上を占めています。

また、黒部川をはじめとして多くの河川が流れ、それに面して黒部川緑地や中ノ口緑地等の公園・緑地が整備されていることも特徴的です。

しかし、市街地の近隣においては、基盤整備された農地を転用した宅地開発が進むとともに、幹線道路沿いでの郊外型商業施設の立地など、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られ、営農環境の悪化などが懸念されます。

６）　自然・景観等

荻生や若栗地区などに広がる美しい散居景観や、黒部川をはじめとする大小の河川が流れる農村景観は、地域の財産となっています。

一方、（一）魚津入善線の沿線には、沿道型商業施設などの立地により、周辺景観と調和しない屋外広告物等が多く設置されています。

また、環境面では、地下水を利用した道路等への消雪装置により、海岸部の地下水位が低下するなどの問題も生じています。

（２）地域の問題点・課題

１）　土地利用

土地利用の適正化を図る

無秩序な開発を抑制することにより、優良農地を守り、農業生産環境の保全を図るとともに、農業の維持・発展に努めます。

一方、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られる市街地に近い地区については、今後の開発動向を踏まえた柔軟な対応が必要となっています。

２）　景観

田園・集落景観を保全する

本地域では、優良農地と点在する散居の屋敷林が調和した美しい田園・集落景観を形成していますが、幹線道路沿線においては、それらを阻害する屋外広告物等が数多く設置されています。

このため、（一）魚津入善線や新たに整備された（都）新駅中新線などの幹線道路沿線においては、開発圧力を注視するとともに、新幹線の車窓から見える景観等にも配慮することにより、美しい田園・集落景観を保全していくことが必要です。

３）　地域資源

河川を保全・活用する

本地域の北側を流れる黒部川をはじめとする諸河川は、うるおいある自然景観として親しまれており、今後とも保全と利活用に努めていく必要があります。

４）　交通

中心市街地等との交通を確保する

本地域においては、地域内外を連絡する路線バスやコミュニティ交通が運行していますが、利用者数が減少傾向を示しており、維持・活性化が喫緊の課題となっています。

一方、本市では、「黒部市立地適正化計画」において、“コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり”を推進しており、同計画に基づき、中心市街地・黒部宇奈月温泉駅等との連携を図る必要があります。

（３）地域の将来像

≪農業生産環境と生活環境が調和した、豊かで美しく快適な地域≫

本地域は、北アルプスのパノラマを背景とした、黒部川扇状地に広がる良好な田園景観や本市を代表する黒部川などの水辺空間を貴重な地域資源として捉え、土地利用の混在を防止するとともに、地域資源の保全・活用を積極的に推進しながら、農業生産環境と生活環境が調和した地域の実現を目指します。

（４）まちづくりの方針

１）土地利用の適正な誘導による農業振興

農業振興を図る地域については、土地利用の混在を防止し、適正な利用を実現するため、関係機関との連携や都市計画法等に基づく各種制度の活用を検討し、無秩序な住宅団地等の開発を抑制します。

また、工場等の立地については、工業団地や工場適地への誘導などによる適正な開発を進め、まとまりのある農地を確保します。

一方、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られる市街地に近い地区については、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努めます。

あわせて、農業生産の進展に向けて、小区画農地から大区画化や汎用化の推進など、農業基盤や生産組織の再構築を促すとともに、担い手育成や鳥獣対策などにより、安定的で持続的な農業生産環境の維持・向上を図ります。

加えて、食の安全が求められている中で、有機農業の促進を図るとともに、市街地の店舗や道の駅ＫＯＫＯくろべ等での収穫物の直売を推進し、まちづくりへの活用を検討します。

そのほか、休耕農地等の有効利用を図るため、生産者や関係機関と連携しながら、「米」以外の黒部らしい特産品の生産、景観に配慮したひまわり栽培、市民農園としての利用、観光客の農業体験、農業を支援する仕組みの導入など、多様な農業の発展を模索します。

２）散居景観などの農村文化を伝える景観の保全

幹線道路沿道や北陸新幹線の車窓・黒部宇奈月温泉駅などから見える北アルプスのパノラマや田園等の良好な景観を保全するため、関係機関と連携しながら、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知に努め、沿道における建築物の景観や屋外広告物の設置等を規制・誘導します。

また、無秩序な宅地化等を防止するとともに、良好な田園景観や眺望景観を保全するため、都市計画制度や景観法等の活用により、建築物の意匠、形態、高さ等の規制・誘導を検討します。

３）黒部川をはじめ河川を活かした親水空間の充実

黒部川をはじめとして、高橋川や黒瀬川、吉田川などの諸河川は、固有の生態系や美しい自然景観を有しており、それらを守り育てながら、うるおいと親しみのある空間として保全するとともに、美化への取組をはじめ、良好な河川環境や景観の向上に努めます。

また、利用状況などを考慮した上で、公園や遊歩道等の整備を検討します。

４）農村環境に配慮した地域間を円滑に連絡する道路・交通網の充実

中心市街地等との公共交通を確保するため、路線バス・コミュニティ交通について、運行事業者や地元振興会との連携を強化し、利用促進に取り組むとともに、適宜、ルートやダイヤの見直しを行うなど、利便性の向上に努めます。

また、地域間の円滑な道路ネットワークを構築するため、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証します。

６－４　中心市街地

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

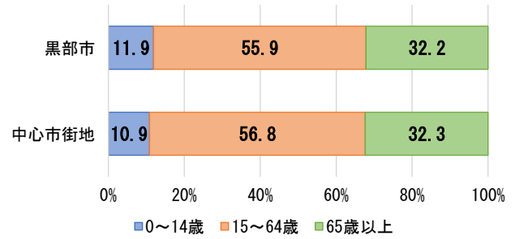
本地域では、三日市保育所周辺などでの土地区画整理事業が進められていることもあり、世帯数は増加していますが、人口が減少しているため、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.9%、65 歳以上が 32.3%であり、本市平均値に近い数値になっています。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	7,200	7,000
世帯数(世帯)	2,990	3,020
人口密度(人/ha)	20.0	19.4
平均世帯人員(人/世帯)	2.4	2.3
人口推移(H27=100)	100	97

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

本市の中心市街地としてにぎわってきましたが、近年は郊外型商業施設の立地等も進み、空き店舗の発生が見られ、旧来からの商店街は衰退傾向にあります。一方、「黒部市立地適正化計画」策定以降、空き店舗を活用した商業施設の立地が見られるようになっています。

３）　観光・交流

本地域は、商業・文化・医療・行政などの都市機能の集積と各地域と連絡する公共交通及び幹線道路網により、本市の交流活動や都市サービスの拠点となっています。

また、近年はまちなかのにぎわい創出に向けた取組なども行われ、観光振興にも寄与しています。

さらに、旧黒部市役所跡地には、くろべ市民交流センター「あおーよ」が整備され、市民などが交流する拠点となっているほか、同施設内の「移住・人つなぎ支援センター」では、移住や関係人口拡大に向けた取組により、地域の活性化が期待されています。

４）　交通

本地域は、各地域と連絡する道路網が集中する交通の要衝ですが、地域内の都市計画道路には、未着手の路線・区間も残っています。

地域内には、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道の２つの路線が走っていますが、徒歩やバスによる乗換え又は魚津市（魚津駅と新魚津駅間）での鉄道の乗換えが必要となっています。

また、鉄道以外の公共交通については、他の地域と連絡する路線バスやデマンドタクシーが運行されているほか、鉄道やバス等を補完する移動手段として、無料公共自転車「ちょいのり黒部」などが整備されています。

５）　土地利用

本地域は、本市の中心市街地であり、住宅地や商店のほか、黒部市役所、くろべ市民交流センター「あおーよ」、黒部市民病院等が集積しており、商業用地や公共公益施設などが多いことが特徴です。

中心市街地では、空き家・空き店舗等の低未利用地が発生している一方で、事業が完了した牧野土地区画整理事業の施行区域内では、住宅やアパートなどの立地が見られます。

また、民間企業が整備したパッシブタウン（集合住宅）やＫ－ＴＯＷＮＮ（単身寮）が立地しています。

６）　自然・景観等

市街地は、民家が密集しているため、火災等の発生時に類焼の危険性が高いうえ、歩道が未整備な道路もあり、通学路や歩行の安全性は十分とは言えません。

一方、「黒部市立地適正化計画」の防災指針によれば、1000 年に１回程度起こる降雨が発生した場合、中心市街地において 0.5m 以上～3.0m未満の浸水が想定されています。

また、北陸街道の宿場町ならではの古い建物やまちなみなどが残っている一方で、建物の建て替えや改築のほか、空き家及び空き地の発生により、北陸街道としての歴史的な面影が衰退しています。

（２）地域の問題点・課題

１）　産業・環境・景観

魅力的でにぎわいのあるまちをつくる

市街地中心部では、郊外型商業施設の立地等の影響により、既存商店街が衰退傾向にあります。

一方、空き店舗を活用した新規出店に対する補助制度を利用して、新たに営業を開始するケースも散見され、中心市街地に一定のにぎわいがもたらされています。

このため、「黒部市立地適正化計画」に基づき、地域住民と行政が協働しながら、商業、医療、文化、行政などの都市機能を誘導するとともに、引き続き、空き家・空き店舗等の適切な土地利用を図るほか、文化・交流拠点となるくろべ市民交流センター「あおーよ」などを活用し、人が集まり、にぎわいと活気に満ちた市街地に再生していく必要があります。

また、地域の歴史的資源を活かした魅力的なまちづくりを通じて、市民の誇りや愛着を高め、来訪者も魅力を感じることで、交流人口の拡大につなげていくことが必要です。

２）　環境

安心して暮らせるまちをつくる

市街地では、交通安全対策、防災対策を充実するとともに、バリアフリー化を推進するなど、こどもから高齢者まで誰もが歩いて暮らせるまちを実現し、生活の利便性の向上と併せて、まちなか居住を推進することが重要です。

また、幹線道路沿いは、市街化が進行しているものの、後背地は道路が狭く農地が点在して残る箇所が見られ、土地の有効活用が求められます。

一方、「黒部市立地適正化計画」の防災指針において整理した災害リスクを踏まえ、水災害に強い市街地の形成が必要です。

３）　交通

新たな交通環境に対応する

各地域と連絡する道路網が集中していますが、未着手の都市計画道路が存在することから、都市計画道路の整備促進が必要です。

また、公共交通網が比較的充実していますが、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道が接続していないことから、この間を結ぶ、バス交通等の更なる充実を図る必要があります。

さらに、国道８号入善黒部バイパス、黒部宇奈月温泉駅、（都）新駅中新線などの整備によって変化する道路・交通環境に対応するため、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道を活かしながら、広域的な交通網を確立していくことが求められます。

あわせて、外出機会の創出による健康づくりと中心市街地活性化の観点から、既存の公共交通では対応が難しい、よりきめ細やかな暮らしの足を確保することが必要です。そのため、環境に配慮し、誰でも気軽に利用できるグリーンスローモビリティとして、中心市街地において主要施設を巡る電動小型カートの導入などにより、出かけやすいまちづくりを進めることが必要です。

（３）地域の将来像

≪魅力的な都市機能が充実し、出かけやすい・出かけて楽しい、にぎわいのある地域≫

三日市地区を核とする中心市街地については、「黒部市立地適正化計画」に基づくコンパクトなまちづくりに向けて、商業、医療、文化、行政などの都市機能の充実を図り、中心市街地の活性化を推進します。

また、他の地域との連携強化、黒部宇奈月温泉駅や幹線道路などとのアクセス性の向上に努め、地域内のみならず、周辺からも都市機能を利用しやすい広域的な都市拠点の形成を目指します。

さらに、住環境の整備・充実などにより、移住・定住の促進に努めるとともに、電動小型カートの導入などによる公共交通の充実を図り、「出かけやすい・出かけて楽しいまち」を目指します。

（４）まちづくりの方針

１）魅力的でにぎわいのある中心市街地の形成

本市及び新川地域の都市活動の中心として、「黒部市立地適正化計画」で設定した都市機能誘導区域へ、商業、医療、文化、行政などの更なる都市機能の誘導を図り、生活利便性の向上と魅力的な市街地の形成に努めるとともに、地域住民はもとより、地域外の市民や市外からも利用者が集まるよう、鉄道駅から各施設へのアクセス性の向上や駐車場の確保等に努め、集客力の向上を図ります。

また、地域住民や関係団体と協働しながら、空き店舗を活用した新規出店に対する補助制度などの利用を促進し、空き家・空き店舗等の適切な土地利用や定期イベントの実施・充実などを図り、にぎわいと活気あるまちづくりを推進します。

さらに、くろべ市民交流センター「あおーよ」は、市民が集い学ぶ文化・交流の拠点であり、市民の交流を積極的に推進し、もって新たな価値を創造するとともに、市民の主体的な活動を推進し、もって市民協働を実現し、さらには未来の黒部市を担う人材を育成する場の提供及びまちなかのにぎわい創出が期待されています。また、複合施設の特性を活かし、①図書館を核とした、②子育て支援、③生涯学習、④市民活動、⑤移住・定住・人つなぎの５機能の連携を図るとともに、利用者や団体の交流による新たな発想を生み出す機能融合（クロスアシスト）事業を展開することで、更なるにぎわい創出が期待されています。

あわせて、くろべ市民交流センター「あおーよ」において実施される各種事業と連携を図りながら、中心市街地のにぎわいを創出します。

加えて、憩いの場として整備した、くろべ市民交流センター「あおーよ」の広場など、にぎわいの拠点において、緑を増やす取組を検討するとともに、パッシブタウンのように、計画的に緑が整備された施設もあることから、こうした拠点を散歩して楽しめる方は散歩して、長距離を歩くことが困難な方には、電動小型カートを利用することで、緑を気軽に楽しめる「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。

一方、市街地内では、宿場町として栄えた旧街道筋の街並みや文化財など、歴史的資源が多く残っていることから、住民との協働を基本としながら、景観法等に基づく制度の活用を検討し、それらの保全と積極的な活用を図ることにより、地域の歴史が感じられる個性的で魅力的なまちづくりを推進します。

このほか、高橋川や黒瀬川など、市街地を流れる河川を活用し、市街地住民の集いや憩いの場となるよう、地域住民や関係団体と協働した取組を推進するとともに、親水空間の整備や河川沿いの緑化など、良好な河川環境や景観の向上に努め、自然を身近に感じられるまちづくりを推進します。

２）こどもから高齢者まで安心して暮らせるまちの整備

本市の中心としてふさわしく、こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる環境を実現するため、歩行者の安全確保、地域医療体制の充実、市民や観光客などが多く集まる施設のバリアフリー化を重点的に進めます。

また、「黒部市立地適正化計画」で設定した居住誘導区域を中心に居住誘導を図るとともに、新たな都市居住の拠点の形成を図るため、「三日市保育所周辺土地区画整理事業」を推進するなど、市街地開発事業の促進や都市施設等の整備充実に努めます。

さらに、空き地や公共施設の跡地などを活用した児童や高齢者等が身近に利用できる公園・緑地の適切な配置の検討など、市街地環境の向上を図ります。

あわせて、水災害に強い市街地を実現するため、「黒部市立地適正化計画」の防災指針に基づく防災・減災対策の取組を推進します。

３）都市間・地域間の連携を強化する道路・交通環境の形成

「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を進める観点から、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道の鉄道網を活かすとともに、それらを補完するバス交通網も含む公共交通の利便性を一層向上させるため、円滑な乗換え等利便性を高める施策を検討します。

また、黒部駅の西側においては、国道８号入善黒部バイパスの開通や商業施設の出店などの活発な土地利用が進められていることから、駅西側からのアクセスを考慮して、西側出口等の整備やバリアフリー化による駅の利便性向上を図るため、駅施設整備事業を計画的に進めます。

さらに、駅へのアクセス性向上のための施策として、国道８号入善黒部バイパスからの連絡向上について検討します。

道路体系においては、国道８号入善黒部バイパスなどの幹線道路と中心市街地との連携の強化に努めます。

あわせて、地域間を結ぶ幹線道路については、必要性の高い路線を選択し、道路改良や歩行環境の整備等を促進するとともに、長期未着手となっている都市計画道路については、必要に応じて、見直しを検討します。

このほか、無料公共自転車「ちょいのり黒部」について、利用状況や今後の需要を考慮しながら、新たなステーション（駐車場）の整備を検討します。

また、中心市街地の回遊性を高め、市民の日常生活における暮らしの足を充実させるため、市役所、市民病院、くろべ市民交流センター「あおーよ」、パッシブタウン、商業施設などの拠点を結ぶ、電動小型カートの導入により、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。

６－５　新幹線駅周辺

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

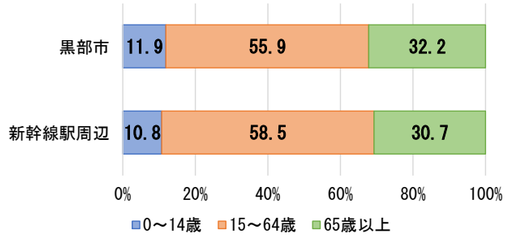
本地域では、人口が減少しているものの、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.8%、65 歳以上が 30.7%でおり、本市平均と比べ、高齢化の傾向は緩やかですが、年少人口の割合がやや低くなっています。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	750	720
世帯数(世帯)	230	240
人口密度(人/ha)	4.4	4.2
平均世帯人員(人/世帯)	3.3	3.0
人口推移(H27=100)	100	96

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

現在は、水稲を中心とした農業地域となっています。

３）　観光・交流

黒部宇奈月温泉駅の開業により、県東部の玄関口にふさわしい駅として、駅近接地には、各種施設が整備されています。

また、北陸新幹線については、令和６年に敦賀駅延伸開業が行われており、本市においても来訪者の増加が期待されます。

４）　交通

黒部宇奈月温泉駅の開業によって、鉄道網の新たな玄関口となり、黒部ＩＣとともに、富山地方鉄道や幹線道路等の都市内幹線が交差する交通結節点となっています。

黒部ＩＣには、東京、埼玉、新潟へ連絡する高速バスの停留所が備わっているほか、黒部宇奈月温泉駅近接地には、新幹線駅からの乗り換えのため、富山地方鉄道の新黒部駅が設置されています。

また、黒部宇奈月温泉駅と連絡する（都）新駅中新線については、国道８号入善黒部バイパスまで開通しています。

５）　土地利用

主に水稲を中心とした農地利用が中心で、住宅は農地に点在する散居形態となっています。

また、将来的に、黒部宇奈月温泉駅近接地の開発圧力が高まることが予想されます。

６）　自然・景観等

北アルプスの眺望や田園・散居などの景観は、この地域の資源として特筆されますが、黒部宇奈月温泉駅近接地の開発圧力の高まりによって、景観阻害なども懸念されます。

（２）地域の問題点・課題

１）　交通

円滑な交通体系を構築する

新川地域における交通拠点として、市内だけでなく、広域的な道路交通網を充実させるとともに、新黒部駅での円滑な乗換えに努め、各地域へのアクセス性の向上を図ることが必要です。

２）　観光

多様なニーズに対し、的確な観光情報を提供する

来訪者の様々な観光ニーズや北陸新幹線敦賀延伸開業などの変化に対応しながら、増加すると予想される来訪者に対して、広域的な観光・地域情報を的確に提供していくことが必要です。

３）　交流

県東部の玄関口にふさわしい機能を導入する

本地域の産業の基盤である農地の保全を前提としつつ、黒部宇奈月温泉駅近接地については、広域交通の拠点として、来訪者の更なる利便性向上を図るため、商業・業務等の機能について、備えていくことが必要です。

４）　景観

地域の景観を保全する

本地域の中央部に広がる田園や北アルプスの眺望など、本市ならではの優れた景観を保全するとともに、地域住民等の参画を基本としながら、景観対策を検討することが必要です。

（３）地域の将来像

≪県東部の玄関口にふさわしい広域的な観光・交通の拠点となる地域≫

黒部宇奈月温泉駅及び駅近接地は、北陸新幹線、北陸自動車道、富山地方鉄道、主要幹線道路等が交差する交通結節点であり、本市だけでなく、県東部における交通の要衝でもあります。

駅近接地については、来訪者を魅了する観光と交流の拠点として位置付けるとともに、県東部の玄関口にふさわしい環境を創出します。

（４）まちづくりの方針

１）黒部宇奈月温泉駅と各地域を円滑に連絡する道路・交通網の充実

黒部宇奈月温泉駅近接地については、駅利用者の利便性向上のため、新黒部駅などの交通結節機能の充実を図るとともに、北陸新幹線大阪延伸を見据え、交通広場や駐車場等の駅近接地における施設や土地利用の在り方について、必要な検討を行います。

道路体系においては、各地区からの連携を強化するため、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証するとともに、黒部ＩＣや周辺の幹線道路からのアクセス道路の整備など、連絡の向上に努めます。

また、黒部ＩＣでは、高速バス利用者の利便性向上のため、パーク＆ライドに対応した駐車場の整備を運行事業者とともに検討します。

２）来訪者に多様で適切な情報を伝える観光拠点

地域観光ギャラリー等については、外国人観光客も含めて、多様で適切な観光・地域情報の提供に努めます。また、テレワークスペースを設置し、ワーケーションなどで市内を訪れたテレワーカーが快適に仕事ができる場所を提供します。

また、立山地域への直通バスなど、市内外の観光地と連絡するバス路線の利用促進を図り、黒部宇奈月温泉駅を観光拠点として機能させるため、広域観光ネットワークの充実に努めます。

さらに、駅に自転車を設置し、駅を拠点としたサイクリング観光の推進に努めます。

３）県東部の玄関口にふさわしい機能の導入

黒部宇奈月温泉駅近接地は、広域的な観光・交通の拠点にふさわしい交流・商業・業務機能等を備えていくことが必要であり、民間企業における開発需要に対しては、周辺景観との調和を図りながら、適切な対応に努めます。

また、黒部宇奈月温泉駅の東西に整備された公園については、駅周辺整備のコンセプトに沿って景観を維持しながら、機能の充実について必要な検討を行います。

４）周辺と調和した良好な景観の保全

黒部宇奈月温泉駅は、周囲の景観に溶け込み、駅内部からは新川の美しい山並みや田園景観が一望できます。

駅舎のデザインコンセプトである「見えない駅・魅せる駅」を念頭に置きながら、地域内に広がる田園景観や北アルプスの眺望の保全に努めます。

このため、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知を図り、眺望や景観を保全するとともに、地域住民等の参画を基本としながら、住民の意識レベルや開発動向を踏まえて、地域の実態に即した各種制度の活用を検討します。

６－６　地鉄沿線

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

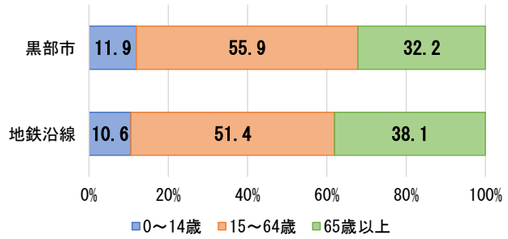
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であることから、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.6%、65 歳以上が 38.1%となっており、本市平均と比べ、特に 65 歳以上の割合が高く、少子高齢化が進んでいます。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	5,700	5,200
世帯数(世帯)	1,920	1,880
人口密度(人/ha)	4.7	4.3
平均世帯人員(人/世帯)	3.0	2.8
人口推移(H27=100)	100	91

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

愛本から下流の地域では、主に農業生産が行われています。

３）　観光・交流

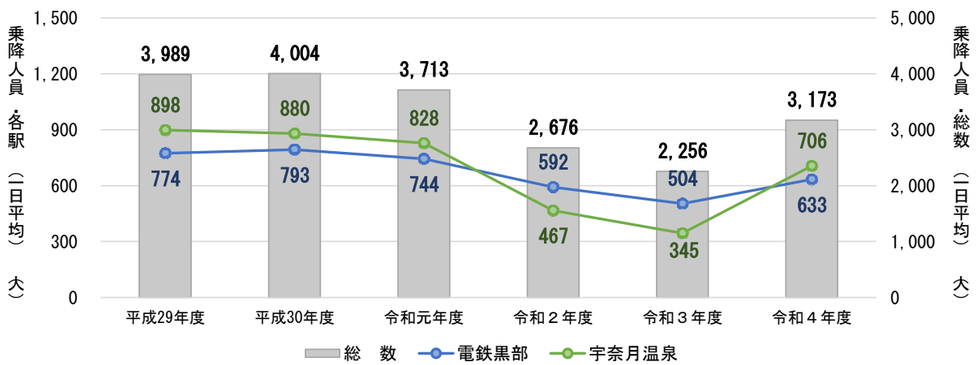
北陸街道の上街道沿線に点在する寺社仏閣や、祭礼などの文化資源を活かした取組が行われています。

４）　交通

集落に沿って走る富山地方鉄道は、地域住民の生活に欠かせない交通手段ですが、人口減少の本格化やライフスタイルの変化などにより、利用者数は減少傾向を示しており、経営が厳しくなっています。

また、バス路線については、愛本駅と入善町・朝日町方面を結ぶコミュニティバス（入善町・朝日町）のほか、愛本コミュニティタクシーが運行されています。

富山地方鉄道の乗降人員の推移



５）　土地利用

富山地方鉄道と並行する幹線道路に沿って集落が形成されています。

また、集落周辺の主な土地利用は、愛本から下流が農地、上流が山林等となっています。

主な公共公益施設等としては、内山地区に宇奈月サービスセンター、若栗地区に若栗小学校、浦山地区に宇奈月小学校、下立地区にうなづき友学館が立地しています。

主な観光施設としては、下立地区に「道の駅うなづき」があります。

６）　自然・景観等

宿場町として発展した歴史を反映して、寺社仏閣や松・桜・銀杏などの古木が多数残るほか、祭礼などの地域文化も数多く伝えられています。

富山地方鉄道の駅舎は、昭和初期に造られたものが一部現存しており、沿線の特徴的な景観になっています。

上街道として黒部川に架かっていた旧愛本橋（刎橋）は、岩国の錦帯橋、甲斐の猿橋とともに日本三奇橋と言われています。

（２）地域の問題点・課題

１）　人口

沿線人口の維持を図る

山あいの地域などでは、生活利便性が高い地域等へ移転する傾向にあるため、住環境の改善等により、人口の流出を防ぐとともに、駅周辺の利便性の高い地区などでは、人口の維持を図ることが必要です。

２）　交通

地鉄の利便性向上による利用促進を図る

富山地方鉄道は、地域住民にとって生活に欠かせない交通手段ですが、沿線人口の減少やライフスタイルの変化などにより、利用者数は長期的に減少しています。

路線の維持・存続のため、沿線人口の維持とあわせ、鉄道利用者の増加を図ることが喫緊の課題となっています。

３）　地域資源

地域に根付いた歴史・文化を守り活かす

地域内には、宿場町として発展した歴史を反映して、多数の歴史・文化資源が残っています。

本地域の歴史を物語る史跡の保存・活用を図るとともに、伝統・文化等の継承に努めることが必要です。

（３）地域の将来像

≪鉄道利用による中心市街地へのアクセス性が高く、

緑の中でゆとりある集落・郊外住宅地が形成された地域≫

本地域は、緑豊かな田園や丘陵地の中に、富山地方鉄道沿線に形成された集落が点在していることから、これら田園や丘陵地と調和した集落の保全を目指します。

また、鉄道を基軸とした公共交通網の利便性を享受できるゆとりある住宅地を形成しながら、鉄道沿線人口の維持に努めるとともに、公共交通の利便性向上と利用促進を図ります。

（４）まちづくりの方針

１）富山地方鉄道を活かした住環境の維持

「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を進める観点から、富山地方鉄道の各駅周辺においては、中心市街地へのアクセスが容易な地域特性を活かしながら、家庭菜園など、ゆとりあるカントリー・ライフが楽しめる住環境を維持します。

また、鉄道駅周辺における住環境や沿線人口を維持するため、鉄道を基軸とした公共交通網の維持、利用促進に向けた取組、まちづくりと連動した交通環境の整備を進めます。

さらに、地域住民の生活に必要な公共施設や生活利便施設の維持などに努めます。

２）公共交通の利便性向上による地域の活性化

「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を推進するため、鉄道の存続に資する取組を継続的に実施するとともに、ＮＰＯ法人を主体とした鉄道の利用を促進する施策の実施や観光地との連携などにより、市民や観光客などの意識・関心を高め、利用者数の増加に努めます。

また、歴史を感じさせる駅舎のイメージを保持しながら、利用状況などを考慮した上で、トイレ、自転車駐車場、取付け道路など、駅舎とその関連施設の整備を促進するとともに、地域住民などと協働しながら、トイレなどの施設の美化活動を推進します。

さらに、運行ダイヤの充実のほか、路線バス、コミュニティ交通等との連携強化や、サイクルトレインの利用促進など、通勤・通学や中心市街地への買物・通院などの利便性の向上を図ります。

３）沿線の歴史・文化の保全・活用

地域に残る歴史・文化を継承するとともに、地域コミュニティを維持していくため、沿線の公共施設を活用した交流を推進します。

また、沿線の歴史・文化めぐりのほか、歴史を感じさせる駅舎や寺社仏閣、古木などの地域資源の再認識、祭礼など、文化の普及に努めます。

このほか、本地域は、黒部宇奈月温泉駅から宇奈月温泉などの観光地へのアプローチ部となることから、富山県景観条例等に基づき、車窓や幹線道路からの景観の保全に努めます。

６－７　中山間地

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

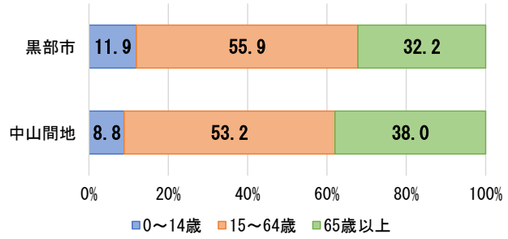
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であることから、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 8.8%、65 歳以上が 38.0%となっており、本市平均と比べ、少子高齢化が進んでいます。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	1,700	1,500
世帯数(世帯)	520	510
人口密度(人/ha)	0.3	0.3
平均世帯人員(人/世帯)	3.3	2.9
人口推移(H27=100)	100	88

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

農林業が中心ですが、近年、高齢化による従事者の減少や、急勾配などの耕作条件の悪さなどから、耕作放棄されている田や、手入れされずに荒廃した山林などが見られます。

３）　観光・交流

くろべ牧場まきばの風では、アグリツーリズム※などの体験メニューも豊富で、来訪者がアイスクリームやバターの手作り体験のほか、動物とのふれあい体験等を楽しむなど、恵まれた自然環境を活かした交流が行われています。また、テレワークスペースを設置し、ワーケーションなどで市内を訪れたテレワーカーが快適に仕事ができる場所を提供します。

※アグリツーリズム：都市部に住む人や家族が地方の農村や農場まで旅行し、一定期間滞在ないし、宿泊する観光形態のこと。

４）　交通

市道山田浦山線や県道の改良など、地域の交通利便性を高める道路網が整備されています。

また、公共交通については、路線バス（池尻線）やデマンドタクシーが運行されています。

５）　土地利用

本地域では、豊かな自然が残り、集落周辺は大部分が山林や農地となっています。

一部に、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）、土石流及び地すべりに関する区域指定がなされています。

公共公益施設等としては、宮野運動公園やくろべ牧場まきばの風等のレクリエーション施設が立地しています。

６）　自然・景観等

扇状地からは、緑豊かな里山を眺望することができ、丘陵の高台からは、広がりのある扇状地や散居村を眺望することができます。

一方、東布施地区では、布施川の自然景観と田園景観が良好な景観となっています。

（２）地域の問題点・課題

１）　人口・交流

地域の活力を維持・向上する

生活の利便性を求めて、人口が他の地域に流出する傾向が強くなっています。

このため、安心して暮らせる住みよい住環境を整え、地域人口の維持に努めるとともに、恵まれた自然環境を活用した都市等との交流の促進などにより、地域の活力を高めていくことが必要です。

２）　交通

公共交通を確保する

中心市街地と田家・東布施地区を結ぶ路線バス（池尻線）や、前沢・田家地区などで利用できるデマンドタクシーが運行されていますが、利用者数が減少傾向を示しています。

このため、これらの維持・活性化が喫緊の課題となっているほか、地域の実情にあった公共交通の検討が必要となっています。

３）　産業・環境・景観

農林業を振興し、開発行為に適切に対応する

農林業従事者の減少や高齢化、耕作条件の悪さなどから、耕作放棄地や荒廃山林が増加しています。

これらを防ぐために、従事者の確保や農業生産への支援など、地域の農林業の振興を図る必要があります。

また、優れた里山環境・景観を保全するため、市民意識の啓発に努めるとともに、都市計画法等に基づきながら、開発行為に適切に対処していくことが必要です。

（３）地域の将来像

≪里山景観と中山間地の地域文化を活かした地域≫

本地域では、黒部川の水の恵みと先人の知恵によって開拓された十二貫野台地が緩やかな丘陵地に広がり、くろべ牧場まきばの風と相まって、美しい里山景観を見せています。また、布施川沿いに展開する東布施地区の集落は、独特の文化を育んでいます。

今後は、緑豊かな里山景観と中山間地の地域文化を活かし、人口流出の抑止や地域の活力を維持するため、都市圏等との交流を促進するとともに、空き家や耕作放棄地の活用、山林の荒廃対策、公共交通の維持・活性化、防災対策などを講じます。

（４）まちづくりの方針

１）自然環境を活かした交流の促進

丘陵山間地においても、安心して暮らせる環境を確保するため、緊急度の高い箇所を見極めながら、急傾斜地や砂防指定地の防災・減災対策を計画的に行うとともに、通信や道路等の基盤施設の整備に努めます。

また、中山間地の特徴である北アルプスや農村の眺望、ゆとりある住宅地等の用地、自然豊かな環境などの特性を活かしながら、快適な里山の住環境を維持するとともに、適切な土地利用を推進します。

さらに、スローライフを考えている人々の移住・定住を受け入れるため、「移住・人つなぎ支援センター」の活用や「黒部市空家・空地情報バンク」の利用促進による空き家の活用を進めます。

このほか、住民や事業者等と協力しながら、地域の魅力が体験できるメニューを用意するほか、グリーンツーリズム・アグリツーリズムなどを実施し、交流人口や関係人口の拡大を図ります。

２）中心市街地との連絡など、地域間の道路・交通網の充実

路線バス等については、地区自治振興会や運行事業者と連携を図りながら、利用者の利便性向上と運行の効率化を研究し、地域の実情にあった路線バス等の維持・確保に努めます。

また、路線バス等が十分に確保されていない地区においては、事業者と地域住民の連携で生活の移動を支え合う「ノッカル」のような自家用有償旅客運送の導入を検討します。

３）里山の再生・整備とみどりの森の再生

里山の豊かで親しみやすい自然環境や景観を保全していくため、森林及び里山の整備と継続的な維持管理や治山事業などを推進し、多様な生態系の維持・保全と美化活動の推進に努めます。

また、里山に受け継がれてきた農林業については、集落や担い手の高齢化等に対応するため、担い手の育成による後継者の確保や農作業が困難な土地での農業経営に対する支援のほか、鳥獣対策などにより、安定的で持続的な農林業の生産環境の維持・向上を図ります。

さらに、自然環境及び自然景観の保全に対する市民意識の啓発に努めるとともに、都市計画法等に基づきながら、開発行為に適切に対応します。

６－８　宇奈月温泉

（１）地域の概況

１）　人口・世帯数

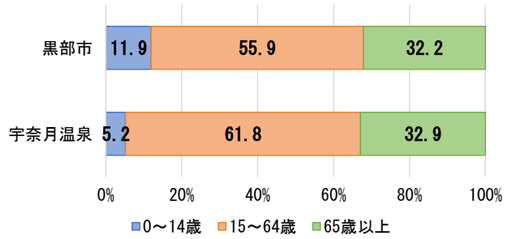
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であるため、平均世帯人員は減少しています。

令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 5.2%、65 歳以上が 32.9%であり、他地域と比較し、15 歳未満の割合が最も低く、少子化の進行が顕著となっています。

人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口(人)	500	430
世帯数(世帯)	310	280
人口密度(人/ha)	4.2	3.6
平均世帯人員(人/世帯)	1.6	1.5
人口推移(H27=100)	100	86

年齢階層別人口割合（令和２年）



２）　産業

地域住民は、主に温泉街の諸施設に従事しており、サービス業や小売業が中心となっています。

３）　観光・交流

温泉と黒部峡谷を主な目的として数多くの観光客が訪れ、県東部の観光の中心地となっており、海外からの観光客の割合も増えています。観光客の総数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に減少したものの、回復傾向にあります。

一方、黒部ダムと黒部峡谷鉄道欅平駅を結ぶ「黒部宇奈月キャニオンルート」の一般開放が今後予定されていることから、本地域でも観光・交流面での活性化が期待されます。

４）　交通

富山地方鉄道と（主）黒部宇奈月線が、平野部・中心市街地と本地域を結ぶ幹線となっています。

また、本地域と立山室堂を乗換えなしで結ぶ観光路線バスが運行しています。

５）　土地利用

地域内は、温泉旅館や土産物店などの商業用地が中心となっており、周辺には、清流・黒部川が流れるなど、雄大な自然が広がっています。

また、住宅用地は、一般の住宅のほか、旅館従業員用の共同住宅、土産物店や飲食店等の店舗併用住宅が多いのも特徴です。

公共公益施設等としては、芸術創造センター「セレネ」、宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」、宇奈月温泉スキー場などが立地しているほか、宇奈月公園や想影公園が整備されています。

なお、用途地域は指定されておらず、建築物の形態制限は、建ぺい率 60%・容積率 200%のほか、建ぺい率 70%・容積率 400%となっています。

６）　自然・景観等

雄大な自然に囲まれた本地域は、四季の変化に富んだ温泉街となっています。

一方、空き家、空き地及び空き店舗が増加しており、魅力的な温泉街の景観への影響が懸念されます。

（２）地域の問題点・課題

１）　観光・交流

観光振興による温泉街の活性化を図る

以前から、黒部峡谷鉄道が休止になる冬季には、観光客の落ち込みが生じています。

また、旅の目的として重要な要素は「食」ですが、温泉街の飲食店不足が課題となっています。

温泉街の新たな魅力創出のため、黒部宇奈月キャニオンルートの開業効果を活かせるよう、電源開発の歴史や木管事件の舞台といった現場を活用し、地元住民によるガイドツアーの創設や食べ歩きができる飲食店等の充実が必要です。

そのほか、訪日外国人に対する情報発信として、雪と温泉などをアピールし、冬期間の誘客促進を図ることが必要です。

２）　人口

人口の維持を図る

新側コロナウイルス感染症の影響により、宿泊者数が減少し、従業員の削減が行われたことなどから、温泉街の人口減少が続いています。

今後は、宿泊施設や観光施設での従業員の確保に努めるとともに、地域住民が観光客を温かくもてなすことができるよう、本地域の人口・世帯の維持に努めることが必要です。

３）　景観

温泉街にふさわしいまちなみを創出する

本地域では、空き家、空き地及び空き店舗が増加しており、魅力的な温泉街の景観への影響が懸念されます。

このため、大自然と調和する宇奈月温泉の魅力的なまちなみ景観を形成するため、廃屋の撤去や宿泊施設の外壁改修を進めることが必要です。

（３）地域の将来像

≪大自然に抱かれて、ゆったりくつろげる国際的な温泉地としての地域≫

中部山岳国立公園・黒部峡谷の入口に位置し、国内外から観光客が訪れる宇奈月温泉については、北アルプスの大自然と調和した観光地として、奥山に広がる雄大な自然の保全に努めます。

また、北陸新幹線や黒部宇奈月キャニオンルートの効果を十分に発揮できるよう、様々な観光客に対応できる温泉地として受入体制を充実します。

さらに、地域住民の日常生活の拠点として、商業等各種生活サービスの充実を図り、地域人口の維持・確保に努めます。

（４）まちづくりの方針

１）地域資源を活かし、多様な観光ニーズに対応した温泉街の形成

様々な観光客に対応できる温泉保養地として、雄大な自然の保全・活用を図りながら、各種宿泊滞在プログラムを充実するとともに、黒部ＩＣ、黒部宇奈月温泉駅などからのアクセス向上を図ります。

また、北陸新幹線や黒部宇奈月キャニオンルートの効果を最大限に活かすため、一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏を構成する３市２町（黒部市・魚津市・滑川市・入善町・朝日町）による広域連携を強めて、通年型の広域観光ルートの開発を促進します。

さらに、芸術創造センター「セレネ」や宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」を拠点とし、更なるにぎわい・交流の創出を図ります。

あわせて、年間を通じて安全で快適な道路空間を確保するため、無散水消雪施設の更新や維持管理を進めるとともに、地域住民や関係団体等と協働しながら、空き店舗対策、飲食・休憩施設等の立地誘導など、魅力ある街並みの形成と回遊性を高める環境づくりを進めます。

このほか、黒部峡谷鉄道の休業期間である冬季期間の誘客促進のため、アジア圏を中心としたインバウンド向けに、雪と露天風呂や宇奈月温泉スキー場でのアクティビティ体験など、関係機関や関係団体と協働しながら、温泉街の魅力創出を図ります。

２）生活関連施設の維持と地域コミュニティの醸成

地域住民の多くが、旅館、土産物店、飲食店など観光に従事していることから、観光産業の振興に努めるとともに、利用者ニーズにあった公園施設整備の検討や地域住民の生活に必要な公共施設、生活利便施設の維持に努めます。

また、地域住民が開催するイベントでの観光客との交流を通じて、地域住民の地域に対する愛着心と誇りを醸成します。

このほか、関係機関と連携しながら、「移住・人つなぎ支援センター」の活用や「黒部市空家・空地情報バンク」の利用を促進するとともに、温泉資源などを活用して、移住・定住の促進を図ります。

３）温泉街や山岳観光の玄関口にふさわしい景観の創出

北アルプスの大自然と調和した宇奈月温泉街ならではのまちなみを創出するため、地区住民や関係団体の意向を踏まえながら、景観法等の活用を検討するとともに、屋外広告物の規制や電線類の地中化、沿道緑化等を推進します。

また、温泉街の周辺に広がる豊かな自然については、関係団体等と協働しながら、環境・景観の保全に努めます。